

## 平成26年度 病院事業会計予算概要

平成26年度の病院事業会計予算は、単年度収支均衡はもちろんのこと、昨年度同様、当院の特色ある取り組みに力を入れるとともに、医療サービス提供の中心となる看護師のスキルアップのための研修事業など将来を見据えた編成を行いました。

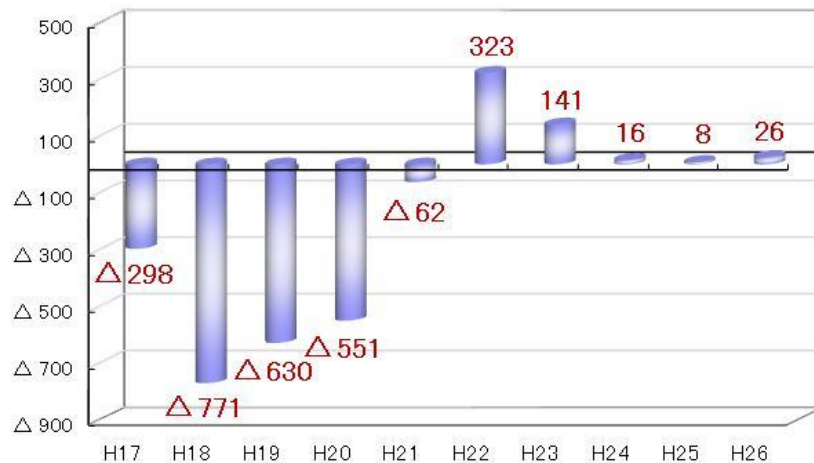
まず、収益的収支において、医師の体制は平成25年度末の水準を維持することができるとともに、回復期リハビリ病棟の安定稼働などで、診療収益は本院・診療所合わせて46億6百万円を予定し、事業収益合計では56億7千8百万円を予定しています。

一方、費用につきましては、改革プランに沿った経費節減を継続して行いますが、公営企業会計制度の改正により退職給付引当金などを費用化するため、事業費用合計では平成25年度の最終予算と比べると、18億9千9百万円の増額となる75億9千1百万円を予定しています。この結果、損益勘定収支（純損益）は平成25年度最終予算からは18億3百万円ほど悪化し、19億1千4百万円の純損失となります。

また、資本的収支においても借金の返済などで4億4千8百万円の収支不足が生じていますが、損益勘定留保資金※で補てんしますので、単年度収支は2千6百万円の黒字となります。

※損益勘定留保資金 減価償却費や固定資産の除却費など費用として予算計上されながら、現金の支出を必要としないものの合計額のことです。

### ☆実質単年度収支（予算）の推移☆



### ☆実質収支比較☆

(単位：百万円)

区 分	H26 予 算	H25 最 終 予 算	増 減
事業収益計 ①	5,666.4	5,574.1	92.3
事業費用計 ②	7,580.8	5,684.9	1,895.9
純損益（△純損失） ③			
①			
②	△ 1,914.4	△ 110.8	△ 1,803.6
損益勘定留保資金 ④	2,389.1	587.4	1,801.7
資本的収支差引 ⑤	△ 448.4	△ 468.7	20.3
単年度収支 ⑥			
③ + ④ + ⑤	26.3	7.9	18.4

※事業収益及び費用は税抜きで表示しています。

# 1. 収益的収入の状況

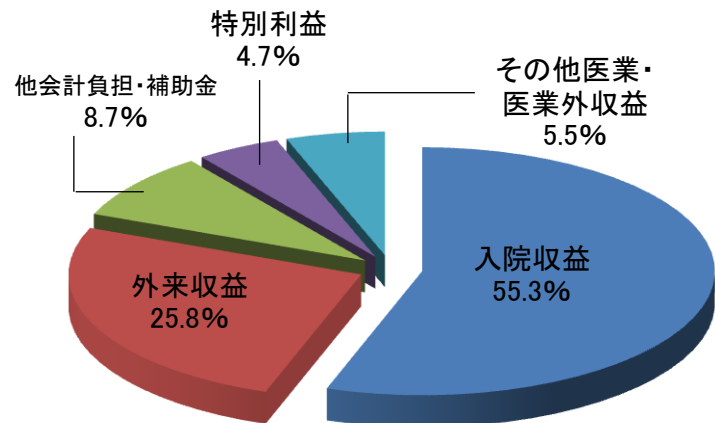
病院事業の収入は、入院料や外来診療料等によりまかなわれています。内訳は、下記のとおりです。  
 ※税込みで表示

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 26 年 度		平成 25 年 度		比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
入院収益	入院料など	3,139,156	55.3	3,176,265	3,084,545	54,611	1.8
外来収益	本院及び診療所の外来診療料など	1,467,294	25.8	1,333,873	1,489,055	△ 21,761	△ 1.5
他会計負担・補助金	留萌市からの負担金・補助金（繰入金）	496,731	8.7	481,334	481,334	15,397	3.2
その他医業収益	室料差額、健康診断料、診療所の交通費実費分など	199,756	3.5	204,844	204,844	△ 5,088	△ 2.5
医業外収益	道補助金、職員給食費・保育料など	111,139	2.0	51,832	60,059	51,080	85.1
特別利益	資産の売却益や特例債元金償還支援など	264,258	4.7	262,418	262,417	1,841	0.7
合 計		5,678,334	100.0	5,510,566	5,582,254	96,080	1.7

前年度最終予算額と比較して、固定医の異動が少なく診療体制もほぼ維持することができることと、回復期リハビリ病棟の安定稼働を予定していることから、入院・外来収益は3千3百万円の増収を予定しています。  
 また、そのほかの収益につきましては、公営企業会計制度の改正により減価償却に伴う長期前受金の収益化により5千1百万円の増収となり、収益的収入の合計は、前年度最終予算額と比較して、9千6百万円増の56億7千8百万円を予定しています。

## ☆収益的収入の内訳☆



## ☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

入院収益	回復期リハビリ病棟の安定稼働など 54,611増収
外来収益	利用者減 △3,087人 21,761減収
他会計負担・補助金	留萌市からの繰入金 15,397増収 (事業収支不足分負担の増 など)
その他医業収益	受託診療収益など 5,088の減収
医業外収益	長期前受金戻入による増(56,000の増収)など
特別利益	一般会計からの特例債元金償還補助の増 1,841増収

## 2. 収益的支出の状況

職員の給料、医薬品購入等の病院事業を運営するために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。

※税込みで表示

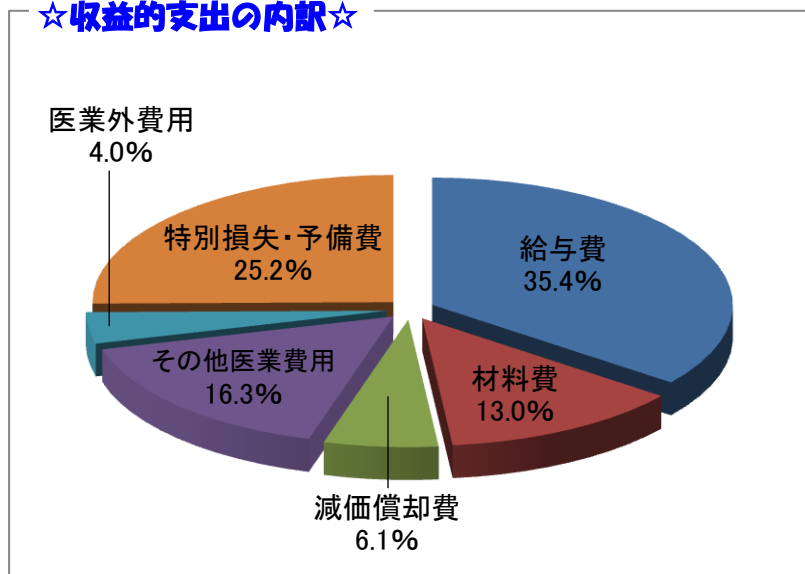
(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成 26 年度		平成 25 年度		比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
給 与 費	職員の給料・手当など	2,688,345	35.4	2,750,720	2,702,508	△ 14,163	△ 0.5
材 料 費	薬・注射・診療に用いる材料・給食材料など	984,985	13.0	951,469	1,037,100	△ 52,115	△ 5.0
減 価 償 却 費	建物や機器などの減価償却	465,497	6.1	420,872	421,548	43,949	10.4
その他医業費用	診療委託料(出張医)・施設維持管理経費など	1,239,372	16.3	1,154,702	1,177,223	62,149	5.3
医業外費用	企業債(借入金)利息・保育施設経費・患者搬送費など	301,613	4.0	321,480	329,469	△ 27,856	△ 8.5
特別損失	貸付金償還免除費、医療費収入不納欠損金など	1,908,370	25.1	5,128	20,645	1,887,725	9,143.7
予 備 費		3,000	0.1	3,000	3,000	0	0.0
合 計		7,591,182	100.0	5,607,371	5,691,493	1,899,689	33.4

前年度最終予算額と比較して、材料費で5千2百万円の減少となり、減価償却費が4千4百万円、その他医業費用で6千2百万円の増加を予定していますが、公営企業会計制度の改正により特別損失で18億8千8百万円の増加を予定しています。

これにより収益的支出の合計では、前年度最終予算額と比較して、18億9千9百万円増の75億9千1百万円を予定しています。

### ☆収益的支出の内訳☆



### ☆主な増減内訳☆

		(単位：千円)
給 与 費	職員の新陳代謝による給与費の減	△14,163
材 料 費	在庫見直しなど材料費の抑制による減	△52,115
減 価 償 却 費	器械・備品償却費の増	43,949
その他医業費用	貸倒引当金繰入による増	48,038 など
医業外費用	繰延勘定償却費の減	△27,133 など
特別損失	退職給付引当金などの各種引当金計上による増	1,908,319 など

### 3. 資本的収支の状況

資本的収支とは将来の経営活動に備えて行う医療機械の購入・施設整備やそれにかかる企業債の元金償還、勸奨や定年退職者の退職金などの支出とその財源になる借入金や企業債償還のための留萌市からの出資金などの収入のことをいいます。内訳は、下記のとおりです。

#### ☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成26年度		平成25年度		比較増減 D(A-C)	増減率 D/C
		予算額A	構成比	当初予算額B	最終予算額C		
企業債	企業債(借入金)	50,000	15.6	189,500	247,200	△197,200	△79.8
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金、負担金・補助金(繰入金)	271,079	84.4	338,581	397,003	△125,924	△31.7
その他	資産購入補助金、固定資産売却代金、貸付金償還金	4	0.0	10,504	18,861	△18,857	△100.0
資本的収入合計		321,083	100.0	538,585	663,064	△341,981	△51.6

#### ☆資本的支出☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成26年度		平成25年度		比較増減 D(A-C)	増減率 D/C
		予算額A	構成比	当初予算額B	最終予算額C		
建設改良費	医療器械の購入・施設整備など	51,008	6.6	205,418	338,323	△287,315	△84.9
企業債償還金	企業債の元金償還金	681,452	88.6	765,677	765,677	△84,225	△11.0
その他	修学資金・研究資金貸付金など	37,040	4.8	31,640	27,740	9,300	33.5
資本的支出合計		769,500	100.0	1,002,735	1,131,740	△362,240	△32.0
収支差引		△448,417	-	△464,150	△468,676	20,259	△4.3

前年度最終予算額と比較して、老朽化した高度医療器械の更新が完了したため、企業債と医療器械更新事業(建設改良費)は大きく減少し、これまでも同様に事業費5千万円を予定しています。また、医療器械分の借金返済の一部が終了したことにより、借金返済に充てる留萌市からの出資金と企業債償還金の減少を予定しています。

これにより、資本的収支差引は、4億4千8百万円の不足が見込まれます。

※この収支不足額は、損益勘定留保資金などで補てんします。

#### ☆主な増減内訳☆

<収益>

(単位：千円)

企業債	医療器械等整備事業債の減	△197,200
他会計出資・負担・補助金	企業債償還分繰入金の減など	△125,924
その他	設備整備にかかる国・道補助金の減	△17,261 など

#### ☆主な増減内訳☆

<費用>

(単位：千円)

建設改良費	高度医療器械更新事業の減	△158,144
	病院施設建設事業の減	△121,403 など
企業債償還金	建設改良事業債元金償還の減	△86,065
	公立病院特例債元金償還の増	1,840
その他	修学資金等貸付金の増	9,300

## 4. 企業債残高及び元利償還金の状況

企業債とは、建設改良事業(病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療器械やシステムの整備など)を行うにあたり、資金が不足している場合に起こす地方債(借金)のことです。

病院事業の元利償還(返済)金は、病院建設事業(本体工事や周辺整備、移転のために更新した医療器械)のために借り入れた企業債の返済が本格化したために年々増加し、平成18年度には8億3千万円にまで上昇、一端ピークを迎えました。その後、医療器械分の返済の一部が終了しましたので、平成19、20年度は6億円程度にまで下がりましたが、平成20年度に医師不足が理由で発生した赤字を分割返済する特別な企業債(公立病院特例債 18億2千4百万円)を発行したことにより残高が増加し、返済額も平成21年度からは8億6千万円に上昇しています。(公立病院特例債の元利償還金は、全額市からの繰入金で返済しています。)

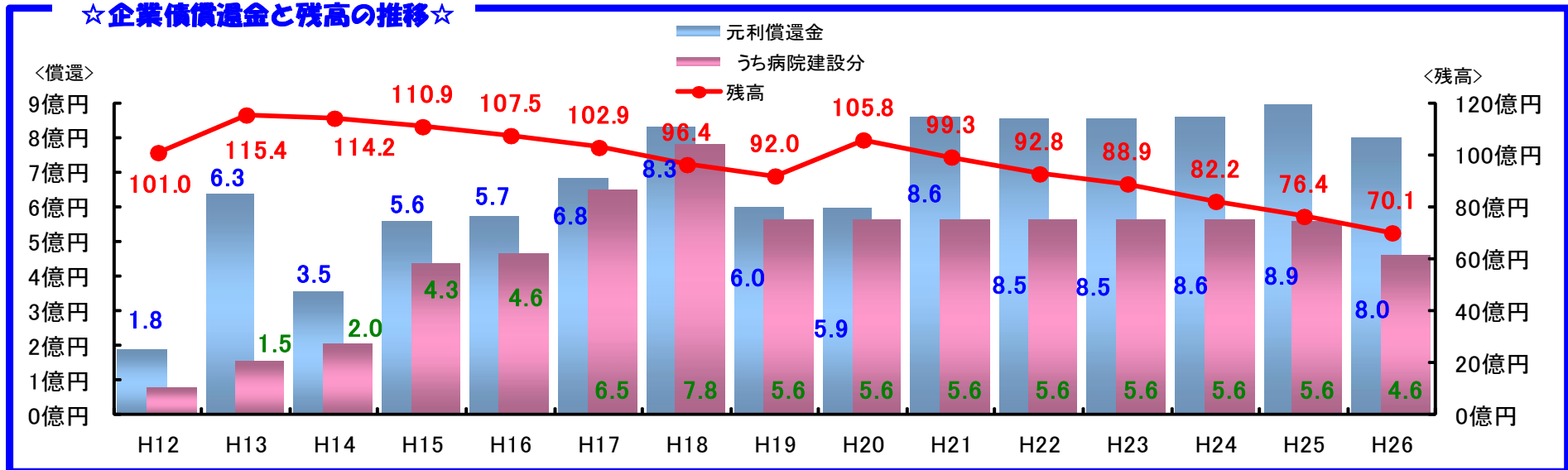
平成25年度には老朽化した高度医療器械などを更新するために1億9千万円を借り入れましたが、平成26年度以降も必要な医療器械等について病院内で精査し、適切な更新・導入を行います。

### ☆企業債償還金及び残高の推移

(単位：百万円)

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
元 金	138	462	172	377	394	504	659	436	440	698	700	707	722	766	681
利 子	47	170	182	181	178	174	169	161	154	160	151	143	135	126	117
元 利 償 還 金	185	633	355	558	572	678	827	597	595	858	851	850	857	891	799
うち病院建設分	75	152	202	432	461	649	778	563	563	563	563	563	563	557	457
うち公立病院特例債										267	268	268	268	268	268
残 高	10,098	11,544	11,419	11,092	10,748	10,294	9,635	9,200	10,583	9,927	9,276	8,892	8,220	7,644	7,012
特例債除く残高									8,759	8,357	7,964	7,839	7,427	7,113	6,746

### ☆企業債償還金と残高の推移☆



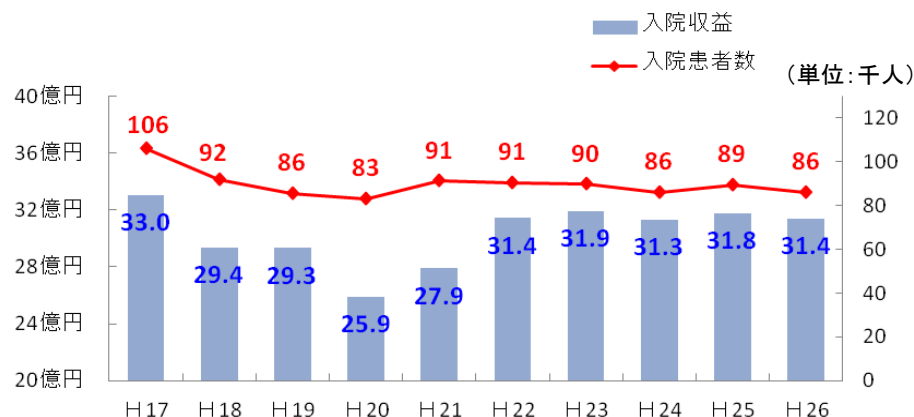
※H13は新病院完成に伴い、旧施設処分にかかる繰上償還(2億64百万円)を実施しているため一時的に償還額が増えています

## 5. 利用者数及び入院・外来収益の推移

当院の利用者数は、平成16年度から実施されている医師の新臨床研修制度の影響から、大学病院医局の医師派遣事情により固定医が確保できない診療科が増え始め、毎年度減少し続けていましたが、平成21年度には皮膚科、脳神経外科で固定医を確保したことで、入院・外来ともに利用者は増加に転じました。しかし、その後も厳しい状況は毎年度続き、利用者数はなかなか増加せずほぼ横ばいで推移しています。

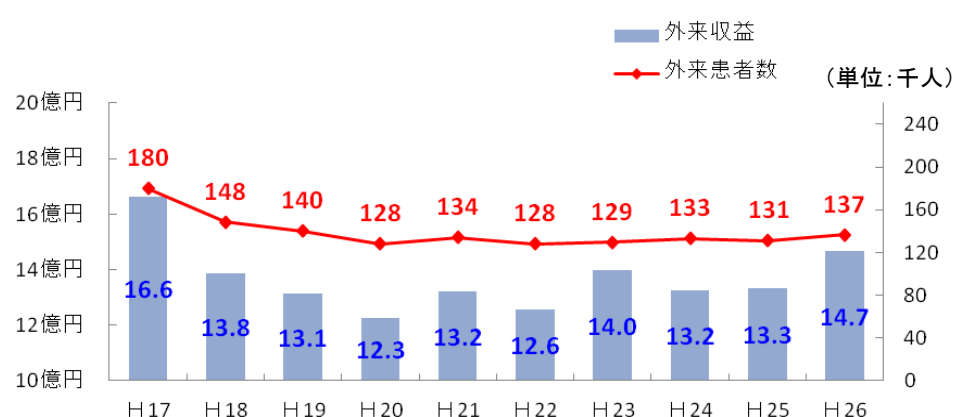
これまでの総合内科医養成研修診療所の開設や勤務医の負担を軽減するための事務作業補助体制の強化などの医師確保活動に加え、平成25年度からは、医育大学の臨床実習施設として学生を受け入れ、地域医療の重要性を学んでもらうなど、医師確保につながるようさまざまな取り組みを全力を挙げて進めます。

### ☆入院患者数・収益の推移☆



- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科入院診療休止
- ・平成18年度 呼吸器内科入院診療休止、循環器内科体制縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小  
11月より療養病棟（50床）開設
- ・平成20年度 循環器内科入院診療休止
- ・平成21年度 皮膚科入院診療再開  
脳神経外科入院診療拡大
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の入院診療再開  
皮膚科、泌尿器科入院診療休止
- ・平成23年度 泌尿器科入院診療再開  
12月より療養病棟を回復期リハビリ病棟に（35床）
- ・平成24年度 回復期リハビリ病棟本格稼働  
7月より泌尿器科入院診療休止
- ・平成25年度 循環器内科の診療体制縮小

### ☆外来患者数・収益の推移☆



- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制の縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制の縮小
- ・平成18年度 循環器内科、呼吸器内科の診療体制の縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小  
10月より在宅支援診療所開設
- ・平成20年度 在宅診療本格稼働
- ・平成21年度 脳神経外科診療体制拡充
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の診療体制拡充  
皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小
- ・平成23年度 泌尿器科通常診療再開  
2月より東雲診療所開設、一般外来（午後）開始
- ・平成24年度 5月より東雲診療所での午前一般外来を開始  
7月より泌尿器科の診療体制縮小
- ・平成25年度 循環器内科の診療体制縮小

## 6. 予定貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成27年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

### ☆資産の部☆

(単位：千円)

区分	金額
1 固定資産	
(1) 有形固定資産	
イ 土地	519,592
ロ 建築物	4,363,031
ハ 構築物	39,090
ニ 器械及び備品	596,300
ホ 車両	3,968
有形固定資産合計	5,521,981
(2) 無形固定資産	1,858
(3) 投資	
イ 長期貸付金	110,503
貸倒引当金	△ 110,503
ロ 長期前払消費税	156,237
投資合計	156,237
固定資産合計	5,680,076
2 流動資産	
(1) 現金預金	465,986
(2) 未収金	851,286
貸倒引当金	△ 20,503
未収金合計	830,783
(3) 貯蔵品	40,950
流動資産合計	1,337,719
3 繰延勘定	
(1) 退職給与金	64,943
繰延勘定合計	64,943
4 繰延資産	
繰延資産合計	0

資産合計 7,082,738

### ☆負債の部☆

区分	金額
5 固定負債	
(1) 企業債	6,332,001
(2) 引当金	
イ 退職給付引当金	1,419,840
ロ 一般会計支出金引当金	165,817
引当金合計	1,585,657
(2) その他固定負債	58
固定負債合計	7,917,716
6 流動負債	
(1) 一時借入金	500,000
(3) 企業債	730,883
(3) 未払金	341,458
(4) 賞与引当金	125,685
(5) 法定福利費当金	21,201
(6) 預り金	21,778
流動負債合計	1,741,005
7 繰延収益	
(1) 長期前受金	465,049
繰延収益合計	465,049

負債・資本合計 7,082,738

### ☆資本の部☆

区分	金額
8 資本金	
(1) 自己資本	5,616,667
資本金合計	5,616,667
9 剰余金	
(1) 資本剰余金	1,473,984
(2) 欠損	10,131,683
剰余金合計	△ 8,657,699

※企業債(当該年度末日の翌日から起算して1年以内に償還予定のものを含む。)のうち、一般会計が負担すると見込まれる額は4,752,689千円である。

## 7. 予定キャッシュフロー計算書 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで損益計算書等では見えにくい現金の流れを知ることができます。 ※間接法により作成しています

(単位：千円)

### ☆①業務活動によるCF☆

区分	金額
当年度純損失	△ 1,914,424
非資金項目の調整	
減価償却費	465,497
引当金の増減額(△は減少)	1,863,549
長期前受金戻入額	△ 56,733
その他非現金支出費用	116,830
営業活動による資産及び負債の増減	
受取利息及び配当金収入	△ 1
支払利息	119,905
未収金の増減額(△は増加)	△ 236,690
未払金の増減額(△は減少)	△ 109,532
たな卸資産の増減額(△は増加)	100
小計	248,501
利息及び配当金の受領額	1
支払利息支出	△ 119,905
<b>業務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>128,597</b>

### ☆③財務活動によるCF☆

区分	金額
短期借入(一時借入金)による収入	2,000,000
短期借入(一時借入金)の返済による支出	△ 2,000,000
長期借入(企業債)による収入	50,000
長期借入(企業債)の返済による支出	△ 681,452
有形固定資産取得に充てる補助金等	1
他会計からの出資及び補助による収入	535,335
その他財務活動による支出	△ 1,008
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 97,124</b>

☆④現金等の増加(減少)額☆ ①+②+③ = △ 55,563

☆⑤現金等の期首残高☆ 521,549

☆⑥現金等の期末残高☆ ④+⑤ = 465,986

### ☆②投資活動によるCF☆

区分	金額
有形固定資産の取得による支出	△ 51,000
有形固定資産の売却による収入	1
長期貸付金による支出	△ 36,040
その他投資活動による収入	3
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 87,036</b>

- ・業務活動によるCF: サービスの提供など営業活動から稼ぎ出した現金
- ・投資活動によるCF: 資産の取得、売却など
- ・財務活動によるCF: 借入金や市の繰入など外部からの資金調達

当事業は、収益の維持と費用の縮減で経営の効率化を図ることで、本業の業績はおおむね良好です。また、有利子負債の残高を市からの支援を受けながら減少させつつ、将来への投資等を実施していることが分かります。

平成26年度予算では、有利子負債の返済が多額であることや、消費税率アップの影響などより現金支出が増え、現金等の期末残高は減少しています。